

Economic Indicators

発表日:2020年5月13日(水)

2020年1-3月期GDP予測(最終版)

～前期比年率▲5.1%を予想。4-6月期は悪化ペースが一段と加速へ～

第一生命経済研究所 調査研究本部

経済調査部長・首席エコノミスト 新家 義貴(Tel:03-5221-4528)

5月18日に公表される2020年1-3月期の実質GDP成長率を前期比年率▲5.1%（前期比▲1.3%）と予測する。4月30日の段階では前期比年率▲4.6%（前期比▲1.2%）と予想していたが、その後公表された経済指標の結果を反映し、予測値を下方修正する。

本日公表された3月分の国際収支統計では、筆者の想定よりも輸出が財、サービスとも下振れたことから、実質輸出の予測値を前期比▲6.1%（従来予測値：同▲4.9%）に下方修正した。輸入についてもサービス輸入の下振れから前期比▲5.1%（従来予測値：同▲4.3%）へと下方修正したが、輸出の修正幅の方が大きく、外需寄与度も前期比▲0.2Pt（従来予測値：同▲0.1Pt）に下方修正となった。その他、4月30日時点で未公表だった3月分の家計調査と家計消費状況調査の結果についても反映を行った。新型コロナウイルス感染拡大により外出抑制の動きが強まったことから3月は家計調査、家計消費状況調査とも落ち込んだが、筆者の想定と大きくは異ならなかったことから、個人消費の予測値は前期比▲2.0%で変更していない。

（需要項目ごとの予測値の解説は、「2020年1-3月期GDP（1次速報）予測」（4月30日発行）をご参照ください）

1-3月期は大幅マイナス成長が予想されるが、新型コロナウイルスの感染拡大による悪影響が大きくなり始めたのは2月末以降であり、1-3月期の結果には悪影響の一部しか反映しきれていない。4-6月期は悪影響がフルに効いてくる上、4月に発令された緊急事態宣言後、経済活動の抑制度合いが一層強まったことから、個人消費を中心として内需は急激な悪化となる可能性が高い。加えて、感染拡大抑制のためのロックダウンの影響により海外経済が急激に悪化していることから、日本からの輸出も今後大幅な悪化となることは確実な情勢である。内外需ともに状況は極めて厳しく、4-6月期は前期比年率で2割を超えるマイナス成長になると予想している。

2020年1-3月期GDP予測

	(%)
実質GDP	▲ 1.3
(前期比年率)	▲ 5.1
民間最終消費支出	▲ 2.0
民間住宅	▲ 3.9
民間企業設備	▲ 1.0
民間在庫変動(寄与度)	0.2
政府最終消費支出	0.6
公的固定資本形成	▲ 0.3
財貨・サービスの輸出	▲ 6.1
財貨・サービスの輸入	▲ 5.1
名目GDP	▲ 1.4
(前期比年率)	▲ 5.5

※断りの無い場合、前期比(%)

(出所)内閣府「国民経済計算」、第一生命経済研究所

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

